

第26回未来教室 府中市立府中第五中学校

1. 学 校 名 府中市立府中第五中学校
校長 中村 一哉 副校長 志田 裕治
2. 住 所 東京都府中市新町2-44-20
042-363-9125
3. 開催日時 平成25年1月15日(火)
5・6時間目 13:30~15:20
4. 実施学年 1年生 5クラス合同 (183名)
会場：武道場
5. 授業内容 教科「総合的な学習の時間」
テーマ「環境に対する企業の取組み」
～環境学習企業訪問を前にして～
6. 協力企業 東レ株式会社
水処理・環境事業本部 メンブレン事業第2部
兼 地球環境事業戦略推進室

当日の様子



府中市立府中第五中学校未来教室参観記

認定特定非営利活動法人おやし日本副理事長 納富善朗

今日の未来教室では、「事業所訪問」（今月下旬）と「職場体験」（2年生時）に備えて、中空糸膜、炭素繊維という二つの先端素材を題材に、科学技術（企業、研究開発従事者）と地球環境の改善とのかかわりを考える授業が行われました。「先端素材は技術の進歩とともに変わっていく。技術の未来を担うのはキミたちだ」という問題の提起です。

生徒は、ろ過しても色の消えない絵の具、オレンジジュース、牛乳が中空糸を通すと透明になることを実験によって確認し、その原理を聴き、中空糸が汚水の浄化や海水の淡水化の素材として水不足対策に活用されていることを学びました。また、炭素繊維が、軽い、強い、硬い、さびないという特性をいかして航空機や自動車に使われ、ガソリン消費の削減を通して地球温暖化対策に寄与していることを学びました。

中学1年生にはレベルの高い授業だったと思います。しかし、2時間の授業中、講師の話と実験に集中していました。熱心にノートをとる姿も印象的で、授業初めの「理科は好きですか」の問いに沈黙の生徒たちでしたが、「今日の授業で理科が好きになれそうだったひとは」との問いかけには3人の手が上がりました。

「理科離れ」が問題になり、「ものづくり」の衰退が危惧される今日、このような授業を通して先端技術の研究・開発・製造の有用性理解が広がっていくことによって、理科学習の意欲は高まり、技術系の職業に就く夢も膨らむに違いないと感じました。